

《 ウッディチキンレポート 8 》

ウッディチキン／東京

『定例会レポート』

日 程 : 2005年11月9日(水)
講 演 : PM7:00~9:05 佐々木の将人先生
港区 品川プリンスホテル 36階 札幌 <参加者203名>
二 次 会 : PM9:15~10:25
同ホテル 34階 釧路 <参加者203名>



レポート作成

ウッディチキン総事務局
谷口 隆

<http://woodychicken.com> info@woodychicken.com

◎大野氏挨拶

- ・ウッディチキンは伊藤代表の呼びかけで、全国的な組織に展開してきている。
- ・東京でのウッディ参加サロンはまだ少ない。
- ・東京エリアでも今日をスタートにして、ウッディの活動を広めて行きたい。
- ・本講演に入る前に、伊藤代表からウッディチキンについての説明をして頂く。



<伊藤代表より>

7:05~7:20

●ウッディチキンとは

- ・3年前くらい前に、私がBAGZYに講習に行った時、久保先生と話している中で、私が「全国には面白い人達が一杯いますよ」と言ったら、久保先生は「その人達と会えないの?」ということで、神戸の川畑さん、岡山の甲斐さん達と岡山で集まり、勉強会をスタートすることになった。
- ・心の勉強をする会として、会名を中国の故事にある「木鶏」にしたかったが、致知出版の中に木鶏クラブがあるので、それに良く似た「ウッディチキン」という名前にした。この会名については致知出版に了解を頂いている。
- ・木鶏とは次のような意味がある。



(ウッディチキンパンフレットより抜粋記載)

中国の古典「莊子」に木鶏というお話があります。わたしたちウッディチキンの名称はそこから来ています。これは木鶏という比喩に秘められる生き方のシンボルであり、人生の目標とする心のあり方を示したお話です。むかし、中国の戦国の時代、紀省子(きせいし)という養鶏家の男が育てる鶏は闘鶏で、闘鶏好きな王の為に、軍鶏の調教訓練をしていました。(周の宜王、または周王といわれる)。

十日ほどたったころ、王が「もう良いか」と聞きました。紀省子は「いや、まだいけません、空威張りして、俺が俺がと強がって威張るところがあります。」と答えました。

さらに十日ほどたったころ、王が「もう良いか」と聞きました。「駄目です。何か音や気配いを感じるとすぐ反応するところがあります。」と答えました。さらに十日ほどたったころ、王が「もう良いか」と聞きました。「まだ駄目です。相手の姿を見ると、睨み付けて圧倒しようとするところがあります。」と答えました。

さらに十日ほどたったころ、王が「もう良いか」と聞きました。こんどは「十分です。」他の鶏が鳴こうと騒ごうと、この鶏の態度は少しも変わるところがありません。」と答えました。

遠くから見たら、その姿はまるで木材で作った鶏、木彫りの鶏のようで、まったく微動だにしません。鳥の徳、すなわち天から与えられた使命、本姓が満たされ充実したのです。

このようになれば他の鶏を連れて来てもとても相手にはならず、姿を見ただけで逃げてしまうでしょう。

闘わずして敵がみな逃げてしまう。戦いのために修練したが、結果的に闘いを超越してしまったというのがこのお話の真髄です。

闘いそのものを追求することよりも、心を動かさなければ天地自然のままに自分を生かす

道がある。本性の徳を満たしていくことが、敵を寄せつけようともしなくなる。それは最早、絶大の効果であるというお話です。

つまり空威張りは偽物、木鶏になるのが本物ということです。

いかにも自分が強く立派な武者者であるように見せかけるというのは、時としてあるようなことですが、そういうことは本当に強い多芸武芸というのではなく、そのような「空威張り」だけでは、その人の目指すところに到底達成することができないという比喩なのです。ただ、いい格好をしたがっているようなだけでは、それこそが自己満足であって、いたずらに人生を過ごすということです。

ところが「木鶏」ともなると、地位、権力、金、欲望というようなものに動じないウラで、もっと本質を見極めんとする心の中の仕事をしています。

その位に品格を持った生き方というものを理念に置いて、己れの我欲にまずうち勝つほどの「確固とした」自分を築いていかれるということ。これは、人生に不動の精神を得て、最大の恵みを得るもとであると考えています。

- ・技術や共同仕入れといった「利」ではなく、他の人がたやすく入って来れない会にしようということになり、各地の記念館を巡ったりして、本を読むことを重ねてきた。
- ・今年に関西、札幌、沖縄、松山、三重、東京で開催してきた。
- ・今後も、旭川、札幌、東京、神奈川、静岡、名古屋、博多、沖縄などがどんどん立ち上がってくる。
- ・来年は、3月、11月を総会として運営を考えていく。(文末に来年度の日程を記載した=谷口)

- ・ウッディメンバーサロンであった感動的な出来事をまとめて、小冊子にして発行することも考えている。
- ・福井大学等の協力を得て、日本経営品質賞の美容バージョンを作ること考えている。
- ・8月には、そのシンポジウムを行う予定である
- ・各研修施設を使って、講演会、寺子屋形式の勉強会をスタートさせたい。
- ・来年3月の京都例会で発表できるように検討を進めている。決定次第、ホームページでもお知らせしていく。
- ・現在、5000名くらいは何らかの形でウッディチキンに参加されていることと思う。
- ・来年4月くらいには、NPO、組合組織など、きっちりした形にまとめようと検討している。
- ・ウッディの目的は、①に心の勉強、②に人助けである。
- ・フィリピンのスモーキンマウンテンの子供たちへの寄付もしている。
- ・ホームページでは、毎回の写真と、レポートをアップしているので見て欲しい。
- ・では、本日の講師の佐々木の将人先生を、ビースタッフの山口先生から紹介して頂きます。



●山口先生より佐々木先生紹介

- ・中村天風先生のかばん持ちとして勉強されてきた方です。
- ・佐々木の将人先生（ささきのまさんど先生）のプロフィールです。

山形県長井市成田出身、昭和4年2月1日生。中央大学経済学部卒、同法学部専攻科修了。友の死が転機で滝行・座禅一九会等で人生の道を探るその縁で、中村天風哲人に会い師事する。また、合気道開祖 植芝盛平翁の元で合気道を行じ合気道師範となる。それに神縁から古神道山蔭神道の山蔭基央館長とは台湾で結ばれて神官となり、昭和52年、フランス政府文化庁の招聘により、パリで「人間性回復」の神道教授として渡仏。同60年再渡仏。昭和58年には、剣祓の神官として、東京ディズニーランドを祓う。現在、合気道師範。明神塾塾長として、日本文化と人の道を説く「佐々木説法」で全国を奔走。雅号「乾舟」。

- ・では先生、よろしくお願ひします。

佐々木の将人先生 講演

7:22~9:05

●かごめの歌

- ・みんなで、「かごめの歌」を歌いましょう！
 - ・「かごめかごめ かごの中の鳥は いついつでやる 夜明けの晩に 鶴と亀がすべった 後ろの正面だ〜れ」
 - ・世界平和の願ひが、この歌の中に込められている。
- ・感激は感性からくる。
- ・インドのタゴールという詩人、思想家、哲学者がいる。「哲学無き政治は成り立たない」という。
- ・物を測るのは物差し、心を計るのは志という。志は、遠く、大きくが大切。
- ・天上天下唯我独尊。「この天と地の間に、自分より尊（とうと）いものはない」ということ。

●日本文化

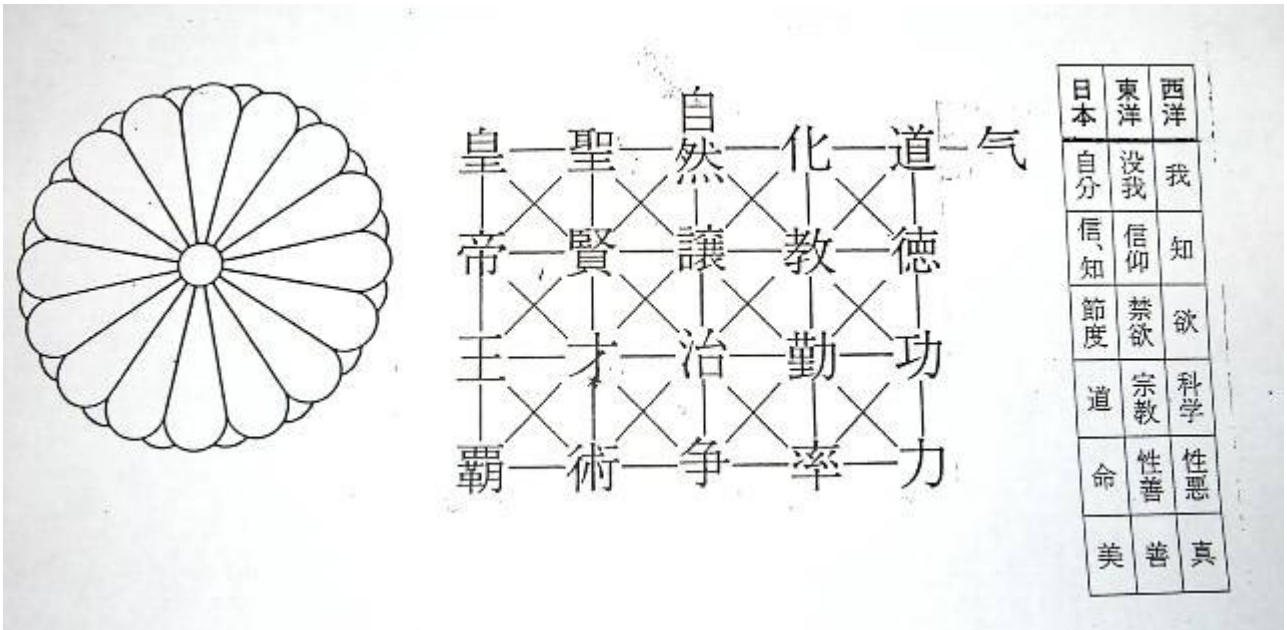
- ・日本はすべて裏で表現する。
- ・日本の文化は、整理整頓。邪魔にならない文化。
- ・生命は、有って無い。「有無」→「空」

●生き方／志

- ・人間は何のために生きるか？ 志を持て！
- ・人間は生きるために食う。
- ・生きがいのある人生は「生き方」にある。
- ・魚は与えるのではなく、「取り方」が大事。
- ・「〜の仕方」が大切。
- ・人間だけがものを作ることが出来る。
- ・人間だけが髪の毛が伸びる。
- ・神が、髪を通して悩むなよと教えている。
- ・今と言う時には、今の「い」は過去のものである。
- ・心の食べ物の本であり、言葉である。



●配布資料について



- ・中央の表は、縦、横、斜めに関連性がある言葉である。
- ・人間の最大の発見は「火」。最大の発明は「金」である。
- ・右端の表は、西洋・東洋・日本の思想の違いを表している。
 - ・自分は自然から分かれたもの。
- ・月は、27日7時間43分11秒で地球を1周りする。
 - ・人間は10月10日後、満潮時に子は生まれる。

●大切なこと

- ・人間で一番重要なのは神経。生かされている。
- ・死ぬということは神経がストップすること。
- ・空気を吸って生きている。息をしている。自然の心を吸っている。
- ・神経とは、念の心で、広くなったり狭くなったりする。
- ・「心はどこにあるのか？」を考えて座禅している時に、掛けてあった額が、ガクッと落ちた。
 - ・その時に「額（ひたい）だ」とひらめいた。
- ・インド人が額を赤くしているのは、いつも明るくしておくという意味である。
- ・人生は一瞬、一瞬である。
- ・大事な言葉「し」・・・師、志、詩、死
- ・アインシュタインに学生が問うた。「何のために生きているのか？」
 - ・彼は答えた。「人は人を幸せにするために生きている」
- ・人生、明るく、生き生きと忙しく生きる。
- ・生きるとは、誰のために、何のために死ぬことが出来るかということである。
- ・ドラマには3つがある。
 - ①出会い ②感激・感動 ③人生転機の節
- ・人間は死ぬまで生きている。
- ・刃物の傷は治りやすいが、言葉で切られた心の傷は治りにくい。



●落ち着く方法

- ・プツと笑うとプラスになれる。
- ・肩を落とし、小指に力を入れ、半眼にし、肛門をキュッと締める。

●神からの預かり物

- ・入れ歯は自分のもの、身体は神様から預かった物。
 - ・身体は昼間は自分で自由に使ってよいが掃除も必要。夜は神様に返せば掃除してくれる。
- ・目は2つあり、上が蓋になっている。耳は縦に付いて2つあるが、開きっぱなしである。
 - ・鼻は縦に付いていて、穴が2つあり開きっぱなしである。口は横に付いていて開け閉め自在である。
 - ・このメカニズムは非常に良く出来ている。
 - ・口は一つ、耳は二つ。倍は聞きなさいということ。
- ・日本は縦書き文化「なるほど」。西洋は横書き文化で首を横に振り「嫌だ」を主張する。



- ・就寝前には鏡に向かって「ありがとうございます」と言って眠るとよい。
- ・そうすると、潜在意識に訴えて、明るくなる。

●日本文化の良さ

- ・日本文化の素晴らしさを感じること。
- ・アインシュタインの言葉。
 - ・「文化はアジアに始まってアジアに帰る。・・・・・・・・・・」
 - (この続きは、右の本に記載されている)
- ・日本人は誇り高き民族である。
- ・誇りを持って生きていこう。



おわり

ありがとうございました。

●二次会



将人先生直筆です。



お疲れ様でした。



大野さん、お世話ありがとうございました。

●三次会

- ・有志一同/六本木「STAR」にて



楽しくやってるぜい!



ハッピーバースデー!



おれが矢沢だ! よろしくっ!

●平成18年(2006年)度の定例会日程<予定>

定例会

1月18日：岡山 2月 8日：広島 3月 8日：京都 4月 5日：福岡 5月10日：沖縄
 6月14日：北海道 7月12日：神奈川 9月13日：三重 10月11日：東京 11月8日：名古屋

その他

8月：福井県 美容経営品質研究会 サマースクール
 各アカデミーの講習日程は3月頃発表

来年もソウルメイトを増やし、交流を深めていきましょう!